



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/6 (月)	+ 400	+ 17,400	+ 17,800	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 社債等買入 900 ▲100		米: ISM非製造業総合景況指数(6月) 欧: ユーロ圏PPI(5月)
7/7 (火)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000				米: 貿易収支(5月)
7/8 (水)	+ 500	▲ 6,000	▲ 5,500	国債発行 (30年)	共通担保 ▲ 8,000		日: 経常収支(5月) 米: FOMC議事要旨(6月16、17日開催分)
7/9 (木)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				日: 日銀支店長会議 さくらレポート(7月) 欧: ECB議事要旨(6月開催分)
7/10 (金)	トン	▲ 10,000	▲ 10,000	国債発行 (5年) 国庫短期証券発行償還 (6M)			日: 国内企業物価指数(6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,100億円増加の440兆4,100億円から始まった。その後、法人税、消費税、保険揚げや国債発行等の要因により減少し、3日は432兆6,900億円(速報)で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.978%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.970%~1.150%のレンジ、1M~3M物1.030%~1.280%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では8日に経常収支(5月)、9日に日銀支店長会議、さくらレポート(7月)10日に国内企業物価指数(6月)の公表、海外では7日に米貿易収支(5月)、8日にFOMC議事要旨の公表(6月16、17日開催分)、9日にECB議事要旨(6月開催分)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ~ 0.978
1M	1.05 ~ 1.10
2M	1.05 ~ 1.15
3M	1.10 ~ 1.25
6M	1.30 ~ 1.50

<レポ>

足許GCは週を通して1.000%~1.005%の狭いレンジでの出会いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~482回債、5年155~185回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~90回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は1兆5,115億円で、週間償還額の6,085億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆918億円から、7月2日時点で25兆2,179億円へと増加した。発行市場では、卸売業・石油製品をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.1%程度から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆1,235億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開に伴う大型発行が見込まれることから、引き続き活況なマーケットが見込まれる。発行レートは、次回の利上げ時期を見極めようとする動きから、引き続き水準を見極める展開となるだろう。

<TDB>

3日の3M(第1391回債)の入札は、最高落札利回り0.9306%(前回債0.9246%)、平均落札利回り0.9133%(前回債0.9109%)となった。来週の入札は7月8日に6M、10日に3Mが予定されている。